

関西自然保護機構2024年大会ポスター発表に出席して(報告)

写真 垣井清澄

報告 米道綱夫

■はじめに

このポスター発表は関西自然保護機構が毎年3月の総会時に四手井綱英章の授賞式と発表及び研究助成事業研究報告会の後に1時間のコアタイムを設け各地域や高校・大学及び研究グループがその活動や成果を発表するものである。3月3日(日)、大阪市立自然史博物館(長居公園内)本館ロビーで開催された。関西が中心であるが今回は東京からの参加があった。

今回の発表について会員の方から色々なご指導をいただいたことに感謝する。また共同で責任分担された岸田副代表からの指摘もありがとうございました。念のため、ポスターに掲載する写真も絶滅危惧種である「ヤマトサンショウウオ」の産卵場所が特定できないように配慮した。さてタイトルは「南部丘陵水生生物再生プロジェクト」とし、守る会で使っている名前をそのまま使うことにした。発表要旨は以下のとおりである。

- ・堺市のレッドカテゴリーAの絶滅危惧種であるヤマトサンショウウオの産卵環境など水生生物の環境の再生を目指す取り組みであること。
- ・南部丘陵の鉢ヶ峯においてほぼ毎年産卵を確認していた場所で2020年まで卵嚢が観られていたが、その後は未確認であること。
- ・そこで当会は昨年10月より専門家のアドバイスを参考に産卵場所の水深を確保するための泥上げ作業など再生プロジェクトを立ち上げたこと。

■本会ポスターの概要

ポスターは上段から鉢ヶ峯の地図上の概念図をその横に堺市の特別緑地保全地区の図を載せた。そしてすぐ下にヤマトサンショウウオの写真を配した。写真は自分が撮影したものと図鑑からの2枚を付けた。これはこのサンショウウオが地域によって色が違うからである。ただ背から尻尾にかけては黄褐色あるいは褐色に黒い点が入った模様はどの地域に棲むヤマトサンショウウオも同じである。

中央部にヤマトサンショウウオの卵嚢の写真を載せた。その右にはヤマトサンショウウオの卵嚢の各年度の出現数を2023年までのせた。ここで表題にあるように2021年以降全く観られていないことを強調した。

再生を目指す場所は個人の所有なので当会のメンバーが調査することを事前に地権者の了解をもらっておいた。上段の写真2021年のものである。その下に昨年プロジェクト推進にあたってアドバイスをいただいた大阪自然環境保全協会の夏原会長、泉北高校理科担当の木村進先生、大阪公立大学大学院農学研究科の鈴木真裕氏、その助言により昨年11月25日に当会のメンバー11名、大阪公立大学理学部2名、里環境の会OB1名合計14名のメンバーで泥あげ、要注意外来生物のキショウブの駆除作業を行った。またアライグマに

成体や卵嚢が捕食されないように水路の端に朽木を置き、ヤマトサンショウウオが産卵しやすいようにした。

その後2024年2月6日、12日、17日、24日に経過観察のため産卵状況調査するが、卵嚢は確認できず。

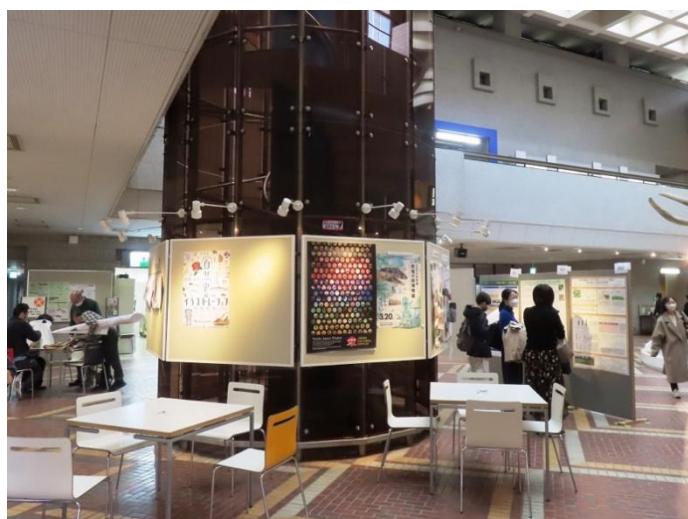
【参考図書】

「オオサンショウウオを知る 守る そしてともに」広島市安佐動物公園50周年記念

「地域自然史と保全」関西自然保護機構

「決定版日本の両性爬虫類」平凡社

「日本アルプスの登山と探検」岩波文庫



ポスター展の会場風景

ポスターの発表スタイル 本会のポスター（構成）

